

平成 30 年度農高・農大就農促進対策事業

事業主体名 鹿児島県立鶴翔高等学校

1 目的

就農者の減少により農産物の生産現場では厳しい状況が続いている。農業が産業としての基盤を脅かしかねない重要な問題である。本事業の推進により、農業に対して興味・関心を生徒がより一層深め、職業としての意識を持ち、携わる生徒を育成することを目標とする。生産から販売、そして加工まで6次産業化を意識し、広く体験できる機会を与えることで、職業としての意識を持たせ農業関連への就職を増やしていく。上級学校への進学を目標とする生徒には、より高度な技術や理論を身につけ、先進的な農業の担い手として就農促進につなげていきたい。地域の小学校や中学校での普及活動を行うことで、早い段階から農業に親しみ理解する子供たちを増やしていき、本校への生徒募集にも繋げていく。

2 実施状況

(1) 地域貢献活動

12月27日に阿久根市三笠の桐野地区14軒の紅甘夏生産農家で収穫実習を行った。収穫時期は、生産者の担い手不足でどの農家さんも「猫の手も借りたいほど」の忙しさである。阿久根市農政課から鶴翔高校で収穫実習ができないかと依頼があり、本校では、果樹の実習が無かったので、生徒には良い経験になるので昨年度より実施している。収穫実習の前に事前学習で桐野地区の紅甘夏の歴史や収穫方法を学び、農業科の1年生、2年生35名で実習を行った。



地 域 貢 献 活 動

(2) 最新農業機械工場見学

12月18日に農業科学科1年生、2年生が、熊本県益城町にあるキセキ農機九州工場で最新農業機械の組み立て等の視察で研修を行った。ここでは、国内外すべてのキセキコンバインをこの工場で見学している。生徒は、工場の概要の説明を受けたと、工場内の製造ラインの見学を行いそれぞれの場所での説明を聞き、農業機械の知識を高めていた。



最 新 農 業 機 械 工 場 見 学

(3) 販売実習

地域や県内、県外のイベントでの販売会に積極的に出店して、自校の商品をアピールして販売を行った。販売会により他者とのコミュニケーション能力が身につく、就職や進学に役立っている。



販 売 実 習

3 今後の課題、取り組み

農業を取り巻く環境は日々変化している。時代の流れでICTを活用した取り組みやGAP取得などの動きが広まっている。今後は、GAPやICTの取り組みを進め地域から必要とされる学校としていく必要がある。